
≠ ノットイコール

H@S E

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

≠ ノットイコール

【Nコード】

N 4 3 4 5 P

【作者名】

H@SE

【あらすじ】

わたしは逃げる。

現実から。

誰も私に、気付かないから。

（前書き）

ニコニコ動画のとある動画を見て、

pixivのとある絵を見て、

むしゃくしゃしてやった。後悔はしていない。

台詞の書き方に気をつけて読んでいただけたら、幸いです。

その日、窓付きは最後のゆめを見た。

ゆめで見つけた可能性を捨て、卵にした。

だから私はからっぽだ。

現実が嫌になり、わたしはゆめの中へと逃げた。

現実とは、誰もわたしを助けない。

だから、ゆめに逃げた。

それなのに、ゆめの中の人たちも、誰もわたしと話をしてくれない。

だからわたしは刺し殺した。

変な丸い生物を、

幽霊の様なものを、

手だけの存在、足だけの存在、顔だけの存在、目だけの存在を、

ピアノを弾く背高のつぼの男性を、

白黒の少女たちを、

鳥の様な顔の女性を、

もっとも深いところで泣き続ける存在を、

そして、金髪のポニーテールの少女を。

誰もわたしの話を聞かなかった。

だから、殺した。

どれだけ殺せど、みんな生き返るけど、

それでも、殺した。

だから――

――死のう。――

前々から、そう思っていた。

現実が嫌になり、わたしはゆめの中へと逃げた。

現実が嫌になった。

げんじつがいやになった

ゲンジツガイヤニナッタ。

だから、死のう。

この日のために、ベランダには台を置いている。

ここはマンション、落ちればきつと、命はない。

だから、落ちよう。

落ちてわたしは、自由になろう。

自由になろう。

ベランダに、足を踏み入れる。

不思議な感じだ、ここは家の中なのに、ここは家の外だ。

朝日が顔を出しかけている。

今から死ぬわたしを見守るように。

台に、わたしは足を乗せた。

誰も話してくれない、そんな現実。

ゆめの中の誰も、わたしに気付かない。

話しかけても答えない。

——夢と現実がごちゃごちゃだ。——

まだ自分が、ゆめの中にいるのではとさえ思える。

一歩、外へと足を踏み出す。

——死のう。——

自分に言い聞かせるように、一歩踏み出す。

『だめだよ。』

——誰？——

久しぶりに、人の声が聞こえた。だけどそれはどこか、曇りガラス越しの様な声だ。

声のする方を振り返る。

ちょうど、自分の真後ろだった。

『死んだら、だめだよ。』

そこに立っているのは、ゆめで出会ったポニーテールの女の子。

——そっか、わたし、やっぱりまだ夢を見ているんだ。——

わたしは、頬をつねる。

きつと、これはゆめだ。

ゆめからさめれば、きつとわたしはベットの中。

だからもう一度、ベランダからやり直した。

『違う、これは現実。』

どれだけ強くつねっても、わたしはゆめからさめれない。

『これは、現実。』

——なら、なぜあなたはいるの？——

『わたしはあなた、あなたはわたし。』

——なら、自分のことなんだからほつといてよ。わたしは、死んで
楽になりたいの。——

——……死んで、自由になりたいの。——

部屋の扉を最後にあけたのは、いつだろう。

その先にまつている現実が怖い。

だからわたしはゆめの中へと逃げた。

ゆめのなかへとにげた。

ユメノナカヘトニゲタ。

だけど夢の中は、現実と何も変わらない。誰もわたしと話をしてく
れない。

だから今度は、生から逃げる。

生きることをやめて、自由になるんだ。

『死んで手に入るものは、楽でも、自由でもない。』

——わたしにはこれしかないの。——

『死んでも、あなたは悲しむだけ。』

——わたしだけが悲しむわ。——

『うっん、違う。』

ポニーテールの少女が、こっちに近づいてくる。

『わたしが……わたしたちが、悲しむ。』

——誰も悲しまないわ。——

『わたしたちが、悲しむわ。』

——あなたは夢の中の存在。もうわたしはゆめを見ない。だから、もうあなたとも会わない。——

死んで、楽になりたい。自由になりたいの。

——死ねばきつと、楽になる。——

『……じゃあ、何であなたは今——』

——泣いているの？

——え？——

言われるまで、自分が涙を流していることに、気付かなかった。

——あれ？　なんで？——

『死ぬのが、怖いから。』

——そんなはずない。死んだら私は、自由になるのに！——

——……それがわたしの、望みなのに！——

『死んで手に入るものは、なにもない。からっぽなんだよ。』

——死んで……楽になりたいの……！——

だけど自然と、わたしの足は立つ力を失い、その場に座り込んでしまっていた。

——どうして？　どうして進まないの、わたしの足。——

あと一歩。

たったあと一歩進むだけで、わたしは自由になるのに。

『あなたがどんな人生を過ごしてきたか、わたしは知っている。』

——あなたは、わたしだから？——

『でも、逃げても、何も変わらない。』

——…。——

『逃げた先の私たちは、あなたを何か変えた？』

——…。——

『……変えなかった。なぜなら、それが嘘だから。あなたが、自分につき続ける、嘘だから。』

——…そうね。——

思えば、わたしがやってきたことは、現実逃避だけだ。

『——。』

わたしの名前が、ポニーテールの女の子に呼ばれる。

その名前は、ずいぶんと久しぶりに聞く。わたしの名前だ。

「——現実で、待っている。」

そのまま彼女は、すうっと、朝焼けに消えていった。

朝日も、上った。

誰も、わたしのことを気に留めなかった。

同級生も、

上級生も、

下級生も、

先生も、

近所の人も、

……家族も。

誰も気に留めなかった。

だから、死のう。

死んで楽になろう

死んで、自由になろう。

そう思っていた。

でも、わたしはただ自分の望まない現実から、目をそむけていただけだ。

どれだけ現実逃避しても、変わるものはない。

現実逃避は、死ぬことだってそうだ。

死んで楽になろう。

死んで、自由になろう。

それは、現実逃避でしかないんだ。

わたしが現実をみたくないという気持ちは、変わってはいない。

それでも――

「――現実で、待っている。」

彼女の最後の言葉は、それまでと違って、曇りのない声だった。

彼女の最後の言葉を、信じてみようと思う。

「――よし。」

わたしは、自分の髪を束ねるゴムを解く。

この日、窓付きは死んだ。

今日からわたしは、自分の本当の名前で再出発する。

もしかしたら、何も変わらないかもしれない。

もっとひどいことになることだってあり得る。

――それでも、わたしは――

永いこと触れることを拒んでいた部屋の扉に、手をかける。

いつからだっ たっ け、わたしが部屋にこもって逃げてきたのは。

——そうだ、兄の交通事故からだ。

思い出して、再び外の恐怖におびえることになる。

——それでも、それでも！

意を決して、扉を、あけた。

彼女の心の最奥にいる、もっとも深いところで泣き続ける存在が泣きやんだことを知るのは、その日の夜だった。

その日、わたしは最初のゆめを見た。

(後書き)

初短編なうえに、いつもと書き方を大きく変えていますので、いくつかおかしい点があるかもしれません。

——あ、いつもかorz

きつと彼女の部屋にはしっかりNASUが置いているでしょうねw

ではでは)。A。)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4345p/>

≠ ノットイコール

2011年10月6日21時58分発行